

「助け愛隊ボランティア養成講座」の内容を協議する作業部会議事録(要旨)

(作業部会員)

星 久美子委員(吹田市介護保険事業者連絡会 訪問介護部会 部会長)

松村 美枝子委員(市民委員)

佐本 一真委員(吹田市社会福祉協議会 CSW)

新宅 太郎委員(吹田市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター)

(事務局)

橋本(豊津・江坂地域包括支援センター)、向井(吹田市 高齢福祉室)

●第1回作業部会

開催日:令和2年11月13日(金)

場 所:亥の子谷コミュニティセンター会議室

参加者:星委員、松村委員、佐本委員、新宅委員、向井(事務局)

【内 容】

1. 作業部会員自己紹介

2. 助け愛隊活動を説明・活動報告

～作業部会員から新宅委員への質問～

Q. これまでトラブルや事故はなかったか。

A. ボランティアから毎回報告書を提出してもらっているが、トラブルも事故もない。

Q. ボランティアは1名で訪問するのか。

A. 必ず2名体制を採っている。ボランティア2名が揃わない時は、新宅委員や社会福祉協議会のCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が同行した。

Q. 対応されたボランティアの感想はどのようなものか。

A. 思っていたより疲れたという人もいれば、気楽でやりやすいという人もいた。達成感を感じている。男性が多いことが印象的。

Q. ボランティアの年齢層はどのようなものか。

A. 平均すると約73歳。

～新宅委員より～

ボランティアから提出してもらった報告書には活動内容のみならず、世帯の困りごとが記載されていることもあるため、適宜必要な対応や機関に繋いでいる。相談者の依頼を解決するだけでなく、それ以外の困りごとを聞いたり解決したりすることにも一役買っていると考えている。

登録ボランティアだけでなく、地域の繋がりをつくるために地域住民で対応(地区福祉委員会等)も含めてコーディネートを行っている。

～新宅委員から星委員への質問～

Q. ヘルパーとして利用者宅を訪問する上で、気をつけていることは何か。

A. ①自分の家のように振るまわないこと。

② とにかく丁寧に物を扱うこと。

③ 物を動かせば必ず元の場所に戻すこと。

④ 逐一声を掛け、了承を得ること。

⑤ 礼儀を尽くすこと。

⑥ 自宅内をジロジロと見ないこと。

⑦ 本人の情報を根掘り葉掘り聞き出さないこと、等が挙げられる。

特に、③については確実に同じ場所に戻さなければならない。高齢者は1cmでも違えば感覚や生活リズムが狂って躓き等の事故に繋がってしまう。

3. 「助け愛隊ボランティア養成講座」の内容について

(主な意見)

- ・活動しているボランティアの経験などを直接伝えてもらってはどうか。
- ・ひとり暮らし高齢者宅で活動する際の注意点については、ボランティアが活動する中で大事なこと。ただし専門職と同様のことを求められると対応できないので、伝える内容を絞る必要がある。
- ・作業部会員で講座の役割分担を検討。

まとめ (12月23日助け愛隊ボランティア養成講座当日の流れ)

司会、進行・・・新宅委員

- | | |
|------------------------------|---------------|
| ① 助け愛隊の活動について (10分) | ・・・佐本委員 |
| ② ひとり暮らし高齢者宅で活動する際の注意点 (15分) | ・・・星委員 |
| ③ 認知症高齢者と接する際に気をつけること (10分) | ・・・橋本委員 |
| ④ 実際に活動するボランティアの体験談 (5分) | ・・・助け愛隊ボランティア |
| ⑤ 質疑応答 (5分) | ・・・新宅委員 |
| ⑥ 個人登録カードの記入 (5分) | ・・・佐本委員 |

4. チラシの配布方法を確認

周知チラシはカラー刷りとし、各地域包括支援センターを始め、図書館や高齢者が集う場所にも配架したい。

助け愛隊ボランティア養成講座 (12月23日) はコロナ感染拡大防止のため中止